

# 今年の栽培を省みて

## 蔬菜の品種と栽培技術について

「北海道は昨年夏の異常高温に続いて、本年は五月の風と連日の旱天に引き続き、六月下旬以降七月の連雨と日照不足

更に異常低温による発育障害等、農家にとつては非常に不

幸な年であつたが、この自然的災害は技術的にも經營機構

の面からも、軽減の方策は不可能であつたかどうか、真に

天災としてあきらめなければならぬ宿命的なものかどう

か、茲に大いに反省しなければならないことが多いよう

思われます。

このようなことから今回、札幌近郊の蔬菜栽培専業家の方々に集つていただきて座談会を開催した(十一月十日)が、

本稿はその概要を摘記したものであります。(文責在記者)

### 園芸座談会

五十嵐 本日はお忙しいところを御参集いただきまして有難う御座いました。

日頃札幌近郊で蔬菜の栽培技術、経営の面で非常に熱心に而も立派な成果を挙げておられる皆様に御出でいただいたのでこの機会に色々御話を御聞かせ願い度いと思います。実は夏の間に皆さんの農場を拝見して御指導をいただくのが本来ですが、お互に忙しいのですからゆづく時間もとれず今日に至つた訳で御座いまして何分ともよろしく御願いいたしま

### 品種の育成が必要だ

加藤 先ず最初に品種の問題について

私共農家としては、次のように考え且つ期待しているわけです。トマトについて

低温というように農家にとつては非常に困った天候が続いておりますが、今、農作業を終えて反省して見ますと、農業経営上の問題、品種の問題、栽培技術の問題等種々御座いますが、先ず最初に果菜類をとり上げてみたくなります。トマトの品種について加藤さんから。

### 北海道に本当に適する

司会者 本日はお忙しいところを御参集いただきまして有難う御座いました。

日頃札幌近郊で蔬菜の栽培技術、経営の面で非常に熱心に而も立派な成果を挙げておられる皆様に御出でいただいたのでこの機会に色々御話を御聞かせ願い度いと思います。実は夏の間に皆さんの農場を拝見して御指導をいただくのが本来ですが、お互に忙しいのですからゆづく時間もとれず今日に至つた訳で御座いまして何分ともよろしく御願いいたしま

北海道に本当に適する

加藤 先ず最初に品種の問題について

私共農家としては、次のように考え且つ期待しているわけです。トマトについて

低温というように農家にとつては非常に困った天候が続いておりますが、今、農作業を終えて反省して見ますと、農業経営上の問題、品種の問題、栽培技術の問題等種々御座いますが、先ず最初に果菜類をとり上げてみたくなります。トマトの品種について加藤さんから。

司会者 本日はお忙しいところを御参集いただきまして有難う御座いました。

日頃札幌近郊で蔬菜の栽培技術、経営の面で非常に熱心に而も立派な成果を挙げておられる皆様に御出でいただいたのでこの機会に色々御話を御聞かせ願い度いと思います。実は夏の間に皆さんの農場を拝見して御指導をいただくのが本来ですが、お互に忙しいのですからゆづく時間もとれず今日に至つた訳で御座いまして何分ともよろしく御願いいたしま

### 品種の育成が必要だ

加藤 先ず最初に品種の問題について

私共農家としては、次のように考え且つ期待しているわけです。トマトについて

低温というように農家にとつては非常に困った天候が続いておりますが、今、農作業を終えて反省して見ますと、農業経営上の問題、品種の問題、栽培技術の問題等種々御座いますが、先ず最初に果菜類をとり上げてみたくなります。トマトの品種について加藤さんから。

中原 藤沢農場でも各種試作しているが、「福寿二号」よりは落ちるのではないかろうか、型は「新宝玉」よりもよいが、玉揃いが悪いのではないかろうか。

米沢 「花農八号」等も良いそうですが、どうでしよう。

田村 果樹と蔬菜の双方をやつている地帯で見たのですが、トマトの疫病は随分出ていたようだ。農業は特に大事な時期には三日おき位に三回位連続してかけて作物の全部を薬で被覆してやることが必要だと思う。なおトマトの疫病には何を使つていますか。

加藤 トマトにはやはりボルドー合剤で四~五斗のものを使つています。少石灰ボルドーの方が良いようだが五六斗

も勿論そうですが、現在北海道に栽培されているものは殆ど府県で育成されたものの中、比較的耐寒性の強いものが北海道向品種として栽培されておるわけでありまして、道または農業試験場、民間等を通じ、品種の改良育成を行つて本當に北海道の風土に適したものを作り出していただきたいし、作り出さねばならぬと思つています。

司会者 全く同感ですね。海老名さんはトマトを相当栽培しているようですが、どんなものを作つていますか。

海老名 ピンク系の「豊玉」、「福寿二号」等が多い。市場または消費者の嗜好からも手頃の大きさということが大事です。余り大きくなり過ぎるのは好まれない。「福寿二号」等は一寸小さいようだが、肥培さえよければ丁度手頃の大きさになる。

加藤 従来トマトは赤系のものが殆どであった為、赤系が好まれてピンク系のものが売れなかつたが、最近は大分変わってきたようだ。

司会者 道内でも旭川付近等は最近ピンク系が断然多いようですね。

海老名 札幌の市場は赤系のものが断然多く六~七割を占め、赤系中最も多いのは「新札幌」でしよう。

米沢 「花農八号」等も良いそうですが、どうでしよう。

中原 藤沢農場でも各種試作しているが、「福寿二号」よりは落ちるのではないかろうか、型は「新宝玉」よりもよいが、玉揃いが悪いのではないかろうか。

田村 果樹と蔬菜の双方をやつしている地帯で見たのですが、トマトの疫病は随分出ていたようだ。農業は特に大事な時期には三日おき位に三回位連続してかけて作物の全部を薬で被覆してやることが必要だと思う。なおトマトの疫病には何を使つていますか。

加藤 トマトにはやはりボルドー合剤で四~五斗のものを使つています。少石灰ボルドーの方が良いようだが五六斗

はなさそうに思う。適地で適当な管理が行えればはじめて良いのであつて一般的ではない面もあるかも知れない。

田村 北海道は非常に広いので、地域によつてかなり自然条件が違うのですから、夫々の地帯に合う品種を見出して使つて行くことが必要ですし、更にはその地帯に合うものを新しく育成して行くことが必要だと思います。

司会者 トマトトーン等皆さん御使いでしようが、本年度はどうでした。

加藤 トマトトーンの効果は確かにあります。福寿二号を七月下旬に出荷して市場で驚かれたことがある。然し本年度は一番果に対するトマトトーンの効果は明瞭でなかつた、というよりも當時高溫であったためその必要がなかつたといえよう。

司会者 番果に対するトマトトーンの効果はまだひどいものであつたからであります。福寿二号を七月下旬に出荷して市場で驚かれたことがある。然し本年度は七月の低溫が最も強く影響したからであろう。この為、畸形果等多かつたし、七月初期と八月中旬過ぎのトマトの疫病はまたひどいものであつた。

田村 果樹と蔬菜の双方をやつしている地帯で見たのですが、トマトの疫病は随分出ていたようだ。農業は特に大事な時期には三日おき位に三回位連続してかけて作物の全部を薬で被覆してやることが必要だと思う。なおトマトの疫病には何を使つていますか。

加藤 トマトにはやはりボルドー合剤で四~五斗のものを使つています。少石灰ボルドーの方が良いようだが五六斗



た。然し藤沢農場付近の人で薬剤撒布をうまくやつて、九月十五日から二十五日頃の一ヶ月三百五十円もする頃に出荷して反収十五~六万円も挙げた人がいました。

## 薬剤撒布は徹底的に、し かも撒布のチヤンスをつ かまねばならぬ

加藤 炭素病、黒星病等の予防の為には、圃場を灌漑にすることが必要ですね。手竹の消毒または交互使用というような処置が絶対必要だと思う。圃場に打ちつけてある杭一本でも見逃してはならないと思う。

五十嵐 胡瓜の手染は絶対連続使用しない。毎年更新して古いものは、必ず燃料に使う等といったところがあるが、あれ位のことが必要なのです。

加藤 農業というものは「半月の間に三回かけたからとか、或は毎週一回かけたからそれで良いんだ」というようなものではない。連日三回かけなければならぬこともあるわけです。要するにチヤンスとかけ方にあると思う。

田村 同感です。撒布の時期と方法とが大切だと思います。このことを良く研究する必要があるし、更にこの為には圃場の作物をよく観察することが必要だと思います。

次に新しい農薬を早く求めるということも勿論大切ではあります。従来のものでも立派なものが沢山あるのでこれを上手に使つて行くことが大切だと思います。

司会者 では次に生産と市場との関係について検討してみたいと思いますが、

都市近郊の園芸も輸送園芸の発達に伴い、漸次圧迫されようとしています。近郊園芸家の皆さんにはどのように考えておられますか。更に中央市場が進出して来るということもあります。

## 販売するには消費の状態 を良く知らねばならぬ

米沢 私共近郊園芸をやるものとしては、当然考へねばならぬことですが、私は次のように考へています。

第一には商品価値を高めて市場に出すこと。

第二には地元の特点を生かすこと。

第三には地元の生産者が相互に連絡をとつて常に一定の量を継続的に保つて行く、これが為には市場を先に考えて時期を逆算して生産計画を立ててくこと等が必要でしよう。

東京近郊等はどのようにしているのであろうか、札幌においても今から強いつながりを持つて行くことが絶対必要だと思う。

中原 福島等の新作地が規格の統一等をやつて揃つたものを出荷し、新しい名産地として進出しようとしている。

加藤 輸送園芸の事がだが、従前のように樺太、千島があつた時は別であつたが、現在は北海道が府県蔬菜の過剰生産品の捨場になつていると私は考へている。そこには北海道で園芸をやつしている者にとっては全くつらいことなのだ。こういう点から考へても、自分の農業経営がどんな位置に立つてゐるかと、このことをよく知ります。

田村 信用されるものを市場に出し常に市民に安心して貰つてもらうことが必要だ

## 消費者も食べものの正しい 食べ方を知らねばならぬ

五十嵐 私は一般市民に食べ物の正しい指導をすることが必要だと思う。われわれはもつと本当にうまいものを食べる習慣を養わねばならぬ。時期外れに入つてくる早出しのよりも、その地場のシンを食べることが必要だ。初夏の頃府県から入つてくる南瓜等全く高いばかりでさつぱりうまくない。

加藤 われわれも品物を統一して良いものを出し、消費者の口迄新鮮なもの届けるようにしなければならない。農家の庭先で入れた籠が小売店の店先迄届くようにせねばうそだ。折角の新鮮な茄子や胡瓜がゴロゴロと籠から籠へ移されて傷ついて行く等は全く涙が出そうな気がする。

海老名 商人も品物によつて価格に相当な差をつけ買うべきであろう。良いものも、悪いものも大した開きがないのでは農家にしてみれば良いものを出そ удается.

うとする気分がそれがで了う。次に農家も商人から信頼されるようなる品の出し方をやるべきだ。籠の上と下どちらの品が違うようでは困る。農家の人々も自分の出した品物が、どのようにして市民の口に入つて行くか、商人なり市場なりを通じて消費者の手に入つて行く迄見届ける位の努力がなされて、はじめてどんなものを出せばよいかがわかるのではないでしようか。

田村 信用されるものを市場に出し常に市民に安心して貰つてもらうことが必要だ

加藤 先程からも話が出ているように市場に出す場合に良いものも悪いものも、大小取りませた儘出すのがいけないのだ、例えばトマトでもこれは直ちに販売してよいもの、これは夕方販売するもの、この籠のものは明日以降の販売用と

いうように区分をして出すべきであるし、これは高く売つてほしいもの、これは安く売らねばならぬもの、というようにして出すことが必要ですね。

五十嵐 御二人の話をきいてると、結局信用されるものを出すということですね、種子馬鈴薯についての話であるが、府県では同じ「男爵」でも「発駅はどこですか」と先ず聞くのですね、「何線の何駅です」と答えると、ああそれならば高いいただいてもよいというよう、今や北海道の種子馬鈴薯でも産地によつてはつきり格付けされています。このようになることが必要な訳で、グループが結束して、「マーク」をつけて出すというようになります。

今一つ福島県の例だが、梨の出荷組合があつて、梨の出荷の際は組合の事務員が農家の庭先へオート三輪等で乗りつけて、農家の生産品を規格別に選果して箱詰めにし、マークをはつて帰つて行く。

このようにすることによってその組合の生産品が統一される。農家自信でやって、農家の生産品を規格別に選果して箱詰めにし、マークをはつて帰つて行く。どうしても欲が出ますからね、こうしてその組合のマークが信用せられて行くことになる訳だ。これ等も徹底していると思つて見て來た。

海老名 全く良い御話を伺いました。私共も若い者のグループを作つて種々研究しながらやつてゐるのでですが、今後色々話しをして良いものをして行くこ

